

令和 7 年いすみ市議会第 4 回定例会一般質問通告一覧

通告 順序	議席番号及び議員名	質 問 事 項
1	1 番 せんだ 雄太	1 冬季の観光促進について いすみ市を訪れる観光客にとって、主な観光期間は菜の花・桜の時期から秋のお祭り頃までの認識があります。また、通年でとぎれなく観光促進を図ることは地域経済の活性化、持続的な発展に繋がると考えます。そこで以下の点について伺います。 ①主に冬季において、地域の特色を生かした屋外イルミネーションやプロジェクションマッピングについて、市としてどのように認識しているか伺います。
2	7 番 黒須 美智雄	1 被災者支援システムについて 千葉県は能登半島地震で、石川県内の全市町村が導入していた被災者支援システムが、住家被害認定調査の業務効率化に大きく貢献したことから、千葉県でも全県での導入を目指し、22 市町村（南房総市、館山市、富津市、勝浦市の近隣市、鋸南町等）と共同で 令和 6 年 11 月 5 日に「千葉県被災者支援システム運用協議会」を設立し、本年 3 月 26 日には県と 18 市町村で共通のシステムを導入する「被災者支援システムに係る契約に関する協定書」を締結しました。予算では、市町村が新たにシステム導入する費用を支援する事業予算 8, 100 万円を盛り込み「早く取り組まなければならない。県内全域での早期整備を目指す。」と発表しました。 ①市として被災者支援システムについての考え方を伺います。 ②県が進めている「千葉県被災者支援システム運用協議会」に参加しなかった理由について伺います。 2 自主防災組織について 自主防災組織は、地域住民が協力・連携して「自分たちの地域は自分たちで守る」ことを目的に活動する組織であり災害時には重要な役割を担う組織でありますので伺います。 ①過去 5 年前からの自主防災組織の設立数について伺います。 ②市として、自主防災組織の設立強化に向けた取組について伺います。
3	13 番 井上 ひろみ	1 障害者基幹相談支援センターについて 障害者総合支援法改正により 2024 年 4 月 1 日から

通告 順序	議席番号及び議員名	質 問 事 項
		基幹相談支援センターの設置が市町村の努力義務となりました。基幹相談支援センターには各地域の特性やニーズに基づいた情報提供を行うとともに障害者が自立して生活できるような支援を行うこととされています。また、地域の人たちが気軽に相談できる窓口を設け信頼関係を築くとされています。基幹相談支援センターは地域のニーズに応じた相談支援を行うためにいすみ市でも設置されていますが、開設時からどのような業務が行われてきたのか伺います。 ２ フェーズフリーな街づくりについて 今年も地球温暖化の影響で台風や大雨が多発し、市民の不安が高まっており、災害発生に備える防災が求められています。令和３年第３回定例会での私の質問に市は、「市の職員に対する研修会開催、またそこから市民にその概念を知らせるよう進めること、そしてフェーズフリーの効果的な普及方法について今後検討していきます」と答弁しています。その後、この課題についてどのような取組を行ったのか伺います。 ３ ジェンダー平等の推進について ジェンダー平等社会とは、あらゆる分野で真の男女平等を求め男性も女性も多様な性を持つ人々も差別なく、平等に尊厳を持ち自らの力を存分に発揮できる社会です。令和５年第３回定例会において、市は「ジェンダー平等を目指すため、まずは理解を広めるための啓発活動が重要と考え、引き続き勉強会や講演会の開催に加え、ホームページや広報誌等を活用し、意識の向上を図ります。また、現在市役所の各課においてジェンダー平等を推進していく上での課題の整理をしています。今後は課題解決に向けてできることからジェンダー平等の推進に向け取り組んでいきます」と答弁しています。この間の取組について伺います。
4	6 番 元吉 栄一	１ 少子化対策の結婚支援について 少子化問題は重要課題であり、こども家庭庁が「地域少子化対策重点推進事業」を行っておりますが、市にとりましても重要課題であることから、私は昨年の第４回定例会で質問を行い、新年度から「少子化対策プロジェクトチームを設置して取り組むことや県にＡＩマッチングシステムの導入を要望する」などの回答を得ておりますが、その後どのように取

通告 順序	議席番号及び議員名	質 問 事 項
		り組まれているのか以下の質問をします。 ①「少子化対策プロジェクトチーム」は、どのような検討を行ったのか伺います。 ②県にA I マッチングシステムの実施を要望すると回答を得ているが、その後どのようにされたのか伺います。 ③市が結婚支援に取り組むことや、県が行う結婚支援の取組を市民に周知することは、結婚を希望する市民の婚活のきっかけづくりになると思いますが、どのように考えているのか伺います。
5	10 番 山口 朋子	1 I C T教育の推進と児童生徒の健康管理について I C T化の急速な進展に伴い子供たちの心身の健康、とりわけ「目の健康」と「脳の発達」への影響については、慎重な対応と予防的な対応が求められます。 ①市として児童生徒の目の健康予防や、脳の発達の影響についてどのように認識されているのか伺います。 ②I C T教育における「健康リテラシー」の育成について、市では、児童生徒が自ら健康に配慮しながらI C T活用できるよう、どのような教育的支援や指導体制を整えているのか。また、教職員や保護者への啓発・研修の取組についても併せて伺います。 2 犯罪から市民を守るための未然防止の取組について 近年、私たちの暮らしを脅かす犯罪が多様化・巧妙化しています。ストーカー行為、配偶者からの暴力、振り込め詐欺や還付金詐欺、そして「闇バイト」による凶悪事件など、被害者の命や尊厳を奪う深刻な事案が後を絶ちません。犯罪の芽を摘み、未然に防ぐことが大切です。 ①市では、犯罪未然防止に向けた啓発チラシやポスターの作成・掲示をどのように位置づけ、取り組まれているか現状と方針を伺います。 ②啓発物をきっかけに、市民が相談窓口や支援制度にアクセスしやすくするための二次元コード、電話番号、WEBサイト誘導などについてどのような工夫がなされているか伺います。 ③今後、犯罪未然防止に向けた啓発活動をより効果的に展開するために、市民参加のキャッチコ

通告 順序	議席番号及び議員名	質 問 事 項
		ピー公募や若者との協働によるデザイン制作など創造的な取組を検討されているか市の考えを伺います。 3 プレコンセプション（妊娠前）ケアについて 近年、若い女性やカップルに対し妊娠・出産に関する知識を伝え、健康意識を高めてもらう「プレコンセプションケア」の取組が国や自治体で始まっています。これは、妊娠する前から若い世代の健康管理を促し、望む人には将来の妊娠に備える情報を提供することで人生設計に役立ててもらうことを目的としたものです。 ①プレコンセプションケアの推進をどのように考えているのか伺います。 ②プレコンセプションケアの今後の対応について市の考えを伺います。
6	3 番 峰島 正広	1 さくらねこ無料チケット行政枠の推進と広報の充実について 市では現在、「地域猫不妊手術補助金制度」及び「飼い主のいない猫不妊手術費補助金制度」が設けられていますが、手続きの煩雑さや活用面などのハードルが高く、近年の申請件数はほとんどない状態と聞いています。そのため、全国で広がりを見せている公益財団法人どうぶつ基金の「さくらねこ無料不妊手術チケット」制度の活用を市として積極的に推進することが望まれます。そこで以下の項目について伺います。 ①「地域猫不妊手術補助金制度」及び「飼い主のいない猫不妊手術費補助金制度」の導入からの利用状況と課題について伺います。 ②既存の制度を市民・ボランティア・獣医師会と連携した広報と周知体制の強化策について今後、どのように取り組むか伺います。 ③行政として地域猫活動を支える相談窓口等の充実を今後どのように図るのか伺います。 ④公益財団法人どうぶつ基金の「さくらねこ無料不妊手術チケット」制度の行政枠を市として導入・活用する考えはあるか伺います。 2 災害時における視覚障害者や高齢者など、情報弱者への防災情報提供の充実について 千葉県は今年度から災害時に視覚障害者や高齢者などが音声で防災情報を得られる「耳で聴くハザー

通告 順序	議席番号及び議員名	質 問 事 項
		ドマップ」を導入しています。同ハザードマップは、スマートフォンアプリ「ユニボイスブラインド」を利用します。スマートフォンのGPSを活用し、現在地の洪水や土砂災害、高潮、津波といった災害リスク情報のほか、周辺5km以内にある避難場所までの経路を音声で読み上げます。そこで以下の項目について伺います。 ①千葉県が導入した「耳で聴くハザードマップ」の概要を市としてどのように把握しているか伺います。 ②「耳で聴くハザードマップ」などの音声対応防災情報を広報誌やホームページ等で周知徹底できないか伺います。 ③市における災害時の情報提供体制において、視覚障害者や高齢者に対する支援の現状と課題は何か伺います。 ④今後、誰一人取り残さない防災情報提供の在り方について市の見解を伺います。
7	2 番 高原 和江	1 市民からの問合せと窓口について 市民の皆さんが安心して暮らせるように、市政としての役割は市民の声をしっかり聴くことだと考えます。そこで以下の質問をします。 ①現在、市民からの問合せに対して市が取り組んでいる施策と今後計画している具体的な施策を伺います。 ②問合せ窓口や総合案内のさらなる改善を求める声が聴かれます。窓口表示・案内方法・アクセス性・広報など、さらに向上するために、現状と具体的対応策を伺います。
8	11 番 田井 秀明	1 がん対策としての検診率向上について 年間7万人以上ががんで死に、がん死亡件数トップの肺がんはレントゲン、胃がんは胃内視鏡、乳がんはマンモグラフィ、子宮頸がんはHPVワクチン接種とHPV併用検診、大腸がんは血便検査と内視鏡検査、前立腺は血液PSA検査といったように、早期発見またはスクリーニングで集団検診により予防へとつなげてきた。 しかし、国も自治体もがん予防のための集団検診の検診率は決して高くありません。現状では検診の大切さを十分に理解しているとは言えないのではないか。そこで市としての認識と今後の検診率の改善策を伺います。

通告 順序	議席番号及び議員名	質 問 事 項
		2 移動期日前投票所について 高齢化に伴い、投票機会の確保が困難となる有権者が増えてきていると思われる。こうした状況への対策の一つとして移動期日前投票所についてどのように考えるか伺います。 3 二酸化炭素等の削減について 市の総面積 15,750ha のうち森林面積は 6,229ha であり、総面積の 39.5%を占めている。市制 20 周年に当たって、気候危機宣言を發表することから以下の質問をします。 ①森林資源を活用して適切な間伐・成長促進管理を行い、J-クレジットとして吸収量を認証・販売する可能性についてどのように考えるか伺います。 ②モデル施設型事業（公共施設改修モデル）と森林クレジット事業を将来的に連携・統合する構想を持っているか市の考えを伺います。 4 ガバメントクラウドの進捗状況について 政府が情報管理の効率化のために整備する「ガバメントクラウド」が提唱され、省庁、自治体が個別運用してきた管理システムをクラウド上の共通サービスに移し、2025 年度までに運用経費を 20 年度比で 3 割減らす目標となっていることから、進捗状況はどうか伺います。